

身近な雑かん木 (2) クサギ

NPO 法人自然観察大学代表 元千葉県立千葉高校 岩瀬 徹

クサギはアカメガシワやヌルデとともに、パイオニア的な雑かん木として普通に見られる。林の伐採跡の大量に現れたり、川の土手に群生したり、街なかのちょっとした空き地にも生えてきたりする。林縁には多いが林内には見られない。葉を切って嗅ぐと特有の臭気があるのでこの名がついたが、花の香りの方は悪くない。従来の分類上はクマツヅラ科という。林縁によく見られる低木のムラサキシキブや、砂浜に這う木本のハマゴウなどと同じ科である。

茎はよく枝分かかれし、高さは普通2～3mほどだがときには5～6mになる。樹皮は灰褐色で、小さい横いぼ状の皮目が散在し、また縦に細かいひび割れ模様がある。

春から夏の間、枝が伸び新たな葉がづぎづぎに出てくる。若い枝や葉柄は白毛におおわれる。葉は対生し、大柄なハート形で質は軟らかく、長い柄がある。先に出た葉の葉柄は後からのもの

より長く伸びて光を受けやすくする。葉の両面に短い毛があり、特に裏の葉脈上に密生する。

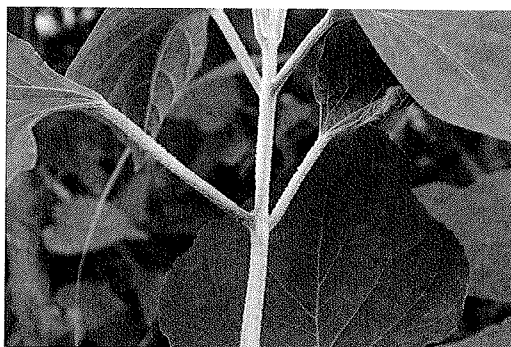
花期は7～8月、枝の先にやや大きな花が集散花序をつくる。がくは深く5裂、それぞれの先はとがる。花冠の下部は筒状、上部は5弁に分かれ水平に開き白色。雄しべは4本で花糸が花冠の外に長く突き出る。雄しべの伸びたときは雌しべはまだ短く、雌しべが伸びたときは雄しべはしぼむ（雄しべ先熟）。子房は4室だが区切りが不完全。

秋には5個のがくが残って中に果実ができるが、やがて開いて赤い星状になり、藍色の果実との組み合わせがよく目立つ。種子は4個でまわりが堅い核（内果皮の変ったもの）で包まれる（核果の集合した構造）。

果実は鳥に食われ、種子は広く散布されるのであろう。パイオニア的雑かん木は鳥散布に負うことが大きい。



写真－1 林縁部によく生える (2011.6)



写真－2 若い枝と葉、白毛におおわれる (2011.6)



写真-3 樹皮 (2011.6)



写真-4 花序をつけた時期 (2011.8)



写真-5 花 (2011.8)

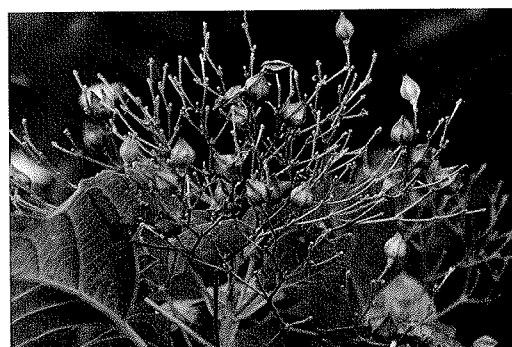


写真-6 花が終わりがくが残る (2011.9)



写真-7 がくが開き中の果実が現れる(2011.10)